

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500599		
法人名	株式会社ボーベルカンパニー		
事業所名	グループホームひだまりの家 (くつろぎ1階)		
所在地	愛知県尾張旭市旭ヶ丘町旭ヶ丘5756の2		
自己評価作成日	平成26年 9月25日	評価結果市町村受理日	平成27年 4月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JiyosyoCd=2374500599-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな立地を活かして、花や野菜を育てたり、外出したりと季節の移り変わりを肌で感じながら毎日を過ごしていただいています。
お花見や夏祭り、紅葉狩りやもちつき、郷土の風習でもあるおこしもの作りなど、季節の行事を行っており、その中でも、夏祭りやもちつきなどは、近隣の子どもたちが多数参加され、交流の機会となっています。
利用者のご家族とも、行事に参加していただいたり、食事会などを開いたりして交流の機会を持っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム開設10年目を迎え、地域に住む家族からの介護相談や近隣に住む人の入居があった。地域の清掃活動への参加やホームの行事である餅つき大会・夏祭りなどを通し、地域の人たちのホームへの理解が深まった結果と言えます。
今年度は家族と利用者が一緒に楽しめる行事の企画を増やした。手巻きすし会、お好み焼き会、敬老会を兼ねての食事会、おこしもの作りなど、ホーム内で利用者と家族が共に過ごす時間を大切に、ホームの貼られた写真には利用者の笑顔があふれていた。そんな行事を増やすことで家族の理解も深まり、家族アンケートでは大変満足の高い評価となった。
さらに今年度は、利用者のつぶやきから個別支援にも力を注ぎ始めていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「我が家のようにつるげる、やすらぎのある生活を支援する」という、施設の理念を常に意識し、実践できるように心掛けています。	職員会議で会社の方針やホーム理念について話をする機会がある。「我が家のように」の一節を職員と共に実践しており、洗濯たみや畑仕事など生活リハビリとして行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや花火大会、もちつきなどの行事に地域の方々に参加していただいたり、地域の野外清掃に参加するなど、交流の機会を持つようにしています。	地域の清掃活動には利用者も参加している。ホームから地域へのお知らせは、ホーム前の掲示板やポスティングで案内している。年末の餅つき大会は地域からの参加も多く、地域の恒例行事となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験の受け入れや、市内のAED設置施設への登録、認知症サポーターのいる施設への登録を行い、地域に向けての活動を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、運営報告会や各種行事と併せて開催したりと、開かれた施設となるように取り組んでいます。	市の条例で3ヶ月に1回の開催である。夏祭りやおこしもの作りなど、行事と共に行い堅苦しさがないよう工夫している。家族の参加が多く、ホームの運営に意見を反映させる仕組みが出来ている。	多様なメンバー構成であると違った視点からも意見がもらえる利点がある。知見者やホームに携わる人々の参加が増えることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者とは、相談や空室状況の案内、情報交換などを行い、連携を取っています。	運営推進会議への参加もあり、日頃から空室情報の知らせや市から研修の知らせなどのやり取りがある。市で開催する事業所連絡会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	引き続き、身体拘束を行わないケアを実践しており、1階の玄関には施錠をせずに、利用者が自由に入出入り出来ている。	ホーム玄関には施錠はない。2階の階段扉には施錠があるが、転落防止のためである。会社全体での研修会では、認知症の基礎知識として身体拘束や高齢者虐待等を学ぶ機会がある。その中にはスピーチロックなども含まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症の基礎知識の勉強会を行い、その中で虐待についても再度学ぶ機会を持ち、全職員が虐待への共通した認識を持つようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の資料を回覧したりと、全職員が制度についての知識を共有できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談を受けた時点から、疑問点などには分かりやすく説明を行っている。また、運営報告会などで、変更点などの説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、運営推進会議や、各種行事、面会の際などに、いつでも意見を伺えるようにしており、できる限り運営に反映できるように努めています。	家族へは月1回のホーム便りを配布しており、写真を多用してホームの状況を伝えている。日頃の面会や運営推進会議の参加などを通し、直接意見をもらえるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の申送りなどで、いつでも意見を言える環境を整えています。また、管理者を通じて、代表者へも意見や提案ができるようにしている。	会社の全体会議やホーム会議があり、職員の意見表出の場となっている。ホームで吸い上げた会社への要望は、直接管理者が会社に申し出ている。「要望など管理者に言いやすい」と、職員ヒアリングで確認する。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が施設を訪れることも多く、職員へ直接声を掛けられ、職員の声を聞いている。研修への参加も積極的に支援しており、就業環境への配慮を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の他施設での研修を行ったり、全社研修を行ったりしています。また、外部の研修への参加も支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加での交流の機会を作っています。 また、参加はなかったが、市内の他のグループホームへ行事の案内を出して交流の機会を作れるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴アンケートを利用して、利用者の要望等をより明確にできるように努めており、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談の段階から、できるだけ要望を聞きとり、安心していただけるよう取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、入居時に、ご本人とご家族が必要としている支援をできるだけ聞き取り、どのように支援をしていくのかをスタッフで検討を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方のできることを、できるだけやり続けていただけるように考え、一方的な介護にならないように工夫しながら支援をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ家族との関わりを続けて行っているように、ご家族が参加できる行事などを計画したり、ケアプラン作成時には、ご家族へアンケートを取り、共に支援していく関係を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話などで関係を持ち続けられるように支援を行っています。 外出の際に、なじみの道を通って話しを聞いたりしています。	外出の際に以前住んでいた自宅の近所を通ったりして、馴染みの場所を思い出す支援がある。家族に了解を得て自宅に電話をするなど、家族との途切れない支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流ができるよう、日頃から職員が間に入り関わりが持てるようにしています。 外出の際なども、ユニット関係なく交流が持てるような支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された利用者の病院退院後について、相談に乗り、系列施設への入所に至った例もあり、できる限りのフォローをしています。また、行事の案内を送ったり、電話で連絡を取っているご家族もいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で意思を表せる方には、話を聞き希望を把握するように努めています。また、意思を表せない方には、ご家族から話しをお聞きして、本人本位となるような支援を心掛けています。	職員から、「意向をうまく伝えられない利用者には簡単な単語で尋ねるとうまく聞く事が出来る」と話があった。訪問調査当日も、「パン作り」の意向を表出した利用者が主役となり、おやつのパン作りに精を出していた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴アンケートを基に、その方のこれまでの暮らしをサービスにつなげられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の、現在の状態を把握して、その方にあった支援ができるよう、食事の提供方法や移動手段などを職員同士で話しあい、ご家族とも相談しながら適宜行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での情報の共有を行い、ご家族からもアンケートで要望等を聞き取り、介護計画に反映させています。	3ヶ月に1回モニタリングを実施している。ケアプランの見直しは変化が見られる時と介護保険更新時期としている。遠方などで日頃ホームに來れない家族へは、ケアプランの意見要望欄に意見をもらう事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録表に、各利用者に対するその日の気づきを記入し、職員間で共有することで、個別の支援を行えるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険の更新に係る手続きの代行や、その他ご家族からの要望があれば柔軟に対応するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の催しや野外清掃に参加したり、地域との関わりを持つ事ができるように、支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院以外のかかりつけ医へも、付添いや送迎を行っており、適切な医療が受けられるよう支援を行っています。	ホームのかかりつけ医の定期的な往診がある。認知症専門医が同法人有料老人ホームへ往診する日があり、そこまでホームから送迎している。他科診療(眼科や皮膚科)などは出来る限りホームで対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が異動となったが、非常勤の看護師2名を採用し、適切な受診や看護を受けられる体制を継続している。また、他の事業所の看護師も緊急時には対応してもらえるような連携体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時には必ず職員が付き添いをし、病院との情報交換を行っています。また、病院のソーシャルワーカーとも、連絡を取り合い、関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からは、終末期の希望を聞き取っており、事業所としてできることを明確にしています。また、消防署の救急隊とも延命処置に関するの情報提供を行っています。	入居の際に終末期の意向を聞き取りしている。入居後は定期的に意向の聞き取り及び入院などの際にも意向の確認をしている。入院して契約が切れても病院任せにはせず、次の受入先の選定などの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命法の受講や、事故発生時の対応についての勉強会などで、全職員が対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の実施や、災害時伝言ダイヤルの使用方法をカードにして家族に配布したり、災害時の対策を行っています。	家族から階段が狭く緊急時に不安の声が上がったことにより、2階からの避難用道具を検討したり、簡易担架の使用法を学んだり、具体的な取り組みがある。備蓄は缶詰やお粥、ペットボトルのお茶などがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一部の職員には、プライバシーへの配慮が行き届かないことも、時折見受けられますが、気づいた他の職員がフォローするようにし、利用者の自尊心を傷つけないよう配慮をしています。	職員から、「トイレに座っている時、恥ずかしくならないようになるべくドアの外で待機し、羞恥心に配慮している」と、具体的な取り組みを聞く事が出来た。	声かけに配慮が乏しい職員もあり、職員の対応にばらつきが見られる。今一度尊厳やプライバシーについて話し合い、職員全員が均一で質の高い支援を提供することを望みたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示がはっきりとできる方に対しては、その方の意見を尊重して、決定していただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に買い物など外出をしたりしている。また、タイムスケジュールにとらわれずに、その日その日の状況に合わせて、生活していただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛を染めたい方には、職員が毛染めを手伝ったりしている。外出の際などには、いっしょに着て行く服を決めたり、おしゃれに気を使うことを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは職員が行っているが、流しそうめんや鍋、お好み焼き、手巻き寿司など、ご家族と一緒に楽しんでいただく機会を作っている。	調理は調理担当の職員が行っている。しかし、お好み焼きやパン作り、ぼたもち作り、おこしもの作りなど、利用者が直接食材に触れる機会も多くある。外食の機会もあり、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご自分のペースでご自身で食事していただく事を基本に、摂取量が少なかったり、水分量が少なかったりした場合には、介助を行ったり、補助的な栄養分をとっていただくようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各利用者の状態に応じて、口腔ケアの支援を行っています。必要に応じ、提携歯科医院による口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄の自立度などに合わせて、下着やパッド・おむつ類の検討を行い、選択しています。	トイレでの排泄を基本としている。表情を見て声をかけたり、排尿時間を確認して時間ごとにトイレに誘導するなど、利用者個々に合わせた様々な対応がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護職と相談して、食形態の変更や内服薬などを検討し、個別の対応を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一時期、職員の手が足りず、入浴のペースが乱れることがあったが、現在は、3日毎のペースで入っていただいている。外出などで、入浴できなかった方に対しては、その前後で入浴していただいています。	定期的に入浴する機会がある。季節感が感じられるように菖蒲、柚子湯などもある。入浴を拒否する利用者には、無理強いすることなく入浴日の変更、清拭や足浴への切り替え等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事や入浴の時間にとらわれず、その方の状況に応じて、時間をずらし、しっかりと休息できるように支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の変更があった場合には、看護職員が連絡ノートに詳しく記し、全職員が把握をしている。また、処方薬の内容はファイルしており、いつでも確認する事ができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼりたたみや洗濯物たたみなど、役割が自然とできています。畑仕事でも、できる範囲で職員と協力して行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の花壇や畑へ出て行かれたり、喫茶店や花見などの季節の行事で外出したり戸外へ出掛ける機会を作っています。また、ご家族と外出される方もいらっしゃいます。	日常的に近隣のスーパーに買い物に出掛けたり、喫茶店、玄関のベンチでに外気浴を楽しむ利用者がある。ドライブで春の花見、バラ園、紅葉等、季節を感じる事ができる催しがあり、ホームには利用者の笑顔の写真が掲示されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族やご本人と相談し、必要な方にはお金をお預かりして、使用できるようにしていますが、お金を盗られたという被害妄想のある方には、ご家族とも相談して、手元には置かないようにしたケースがあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話をつないだり掛けたりすることを支援しています。また、手紙のやり取りもできるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、利用者とともに掲示物を作成し飾ったり、懐かしい音楽を掛けたりして、居心地よく過ごしていただけるように工夫をしています。	南向きのリビングは採光も良く、ゆったり出来るソファが置かれており、食後くつろぐ利用者が多い。壁面を飾る季節の装飾や金魚の水槽、観葉植物などが配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、自然とその方々の定位置みたいなものができ、利用者同士が居心地の良い場所を作られているようです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔、陶芸をされていた方の部屋には、その方がつくられた作品を飾ったり、お孫さんが部屋を飾って下さる方もいらっしゃいます。	居室の入り口には解りやすい表札がある。ペット、筆筒はホームで準備している。家族が居室の飾りつけを行っている部屋には、多くの家族写真や作品などの馴染みの品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置をしっかりと認識できていない方に対し、居室の前にトイレへの矢印をつけたり、大きく表示をしたりして、一人でもトイレへ行けるような工夫をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500599		
法人名	株式会社ボーベルカンパニー		
事業所名	グループホームひだまりの家(やすらぎ2階)		
所在地	愛知県尾張旭市旭ヶ丘町旭ヶ丘5756の2		
自己評価作成日	平成26年 9月25日	評価結果市町村受理日	平成27年 4月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JkyosyoCd=2374500599-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな立地を活かして、花や野菜を育てたり、外出したりと季節の移り変わりを肌で感じながら毎日を過ごしていただいています。
お花見や夏祭り、紅葉狩りやもちつき、郷土の風習でもあるおこしもの作りなど、季節の行事を行っており、その中でも、夏祭りやもちつきなどは、近隣の子どもたちが多数参加され、交流の機会となっています。
利用者のご家族とも、行事に参加していただいたり、食事会などを開いたりして交流の機会を持っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「我が家のようにつろげる、やすらぎのある生活を支援する」という、施設の理念を常に意識し、実践できるように心掛けています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや花火大会、もちつきなどの行事に地域の方々に参加していただいたり、地域の野外清掃に参加するなど、交流の機会を持つようにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験の受け入れや、市内のAED設置施設への登録、認知症サポーターのいる施設への登録を行い、地域に向けての活動を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、運営報告会や各種行事と併せて開催したりと、開かれた施設となるように取り組んでいます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者とは、相談や空室状況の案内、情報交換などを行い、連携を取っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	引き続き、身体拘束を行わないケアを実践しており、1階の玄関には施錠をせずに、利用者が自由に出入り出来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症の基礎知識の勉強会を行い、その中で虐待についても再度学ぶ機会を持ち、全職員が虐待への共通した認識を持つようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の資料を回覧したりと、全職員が制度についての知識を共有できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談を受けた時点から、疑問点などには分かりやすく説明を行っている。また、運営報告会などで、変更点などの説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、運営推進会議や、各種行事、面会の際などに、いつでも意見を伺えるようにしており、できる限り運営に反映できるように努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の申送りなどで、いつでも意見を言える環境を整えています。また、管理者を通じて、代表者へも意見や提案ができるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が施設を訪れることも多く、職員へ直接声を掛けられ、職員の声を聞いている。研修への参加も積極的に支援しており、就業環境への配慮を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の他施設での研修を行ったり、全社研修を行ったりしています。また、外部の研修への参加も支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加での交流の機会を作っています。 また、参加はなかったが、市内の他のグループホームへ行事の案内を出して交流の機会を作れるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴アンケートを利用して、利用者の要望等をより明確にできるように努めており、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談の段階から、できるだけ要望を聞きとり、安心していただけるよう取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、入居時に、ご本人とご家族が必要としている支援をできるだけ聞き取り、どのように支援をしていくのかをスタッフで検討を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方のできることを、できるだけやり続けていただけるように考え、一方的な介護にならないように工夫しながら支援をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ家族との関わりを続けて行っているように、ご家族が参加できる行事などを計画したり、ケアプラン作成時には、ご家族へアンケートを取り、共に支援していく関係を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話などで関係を持ち続けられるように支援を行っています。 外出の際に、なじみの道を通って話を聞いたりしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流ができるよう、日頃から職員が間に入り関わりが持てるようにしています。 外出の際なども、ユニット関係なく交流が持てるような支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された利用者の病院退院後について、相談に乗り、系列施設への入所に至った例もあり、できる限りのフォローをしています。また、行事の案内を送ったり、電話で連絡を取っているご家族もいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で意思を表せる方には、話しを聞き希望を把握するように努めています。また、意思を表せない方には、ご家族から話しをお聞きして、本人本位となるような支援を心掛けています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴アンケートを基に、その方のこれまでの暮らしをサービスにつなげられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の、現在の状態を把握して、その方にあつた支援ができるよう、食事の提供方法や移動手段などを職員同士で話しあい、ご家族とも相談しながら適宜行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での情報の共有を行い、ご家族からもアンケートで要望等を聞き取り、介護計画に反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録表に、各利用者に対するその日の気づきを記入し、職員間で共有することで、個別の支援を行えるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険の更新に係る手続きの代行や、その他ご家族からの要望があれば柔軟に対応するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の催しや野外清掃に参加したり、地域との関わりを持つ事ができるように、支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医院以外のかかりつけ医へも、付添いや送迎を行っており、適切な医療が受けられるよう支援を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が異動となったが、非常勤の看護師2名を採用し、適切な受診や看護を受けられる体制を継続している。また、他の事業所の看護師も緊急時には対応してもらえるような連携体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時には必ず職員が付き添いをし、病院との情報交換を行っています。また、病院のソーシャルワーカーとも、連絡を取り合い、関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からは、終末期の希望を聞き取っており、事業所としてできることを明確にしています。また、消防署の救急隊とも延命処置に関する情報提供を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命法の受講や、事故発生時の対応についての勉強会などで、全職員が対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の実施や、災害時伝言ダイヤルの使用方法をカードにして家族に配布したり、災害時の対策を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一部の職員には、プライバシーへの配慮が行き届かないことも、時折見受けられますが、気づいた他の職員がフォローするようにし、利用者の自尊心を傷つけないよう配慮をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示がはっきりとできる方に対しては、その方の意見を尊重して、決定していただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に買い物など外出をしたりしている。また、タイムスケジュールにとらわれずに、その日その日の状況に合わせて、生活していただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛を染めたい方には、職員が毛染めを手伝ったりしている。外出の際などには、いっしょに着て行く服を決めたり、おしゃれに気を使うことを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは職員が行っているが、流しそうめんや鍋、お好み焼き、手巻きずしなど、ご家族と一緒に楽しんでいただく機会を作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご自分のペースでご自身で食事していただく事を基本に、摂取量が少なかったり、水分量が少なかったりした場合には、介助を行ったり、補助的な栄養分をとっていただくようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各利用者の状態に応じて、口腔ケアの支援を行っています。必要に応じ、提携歯科医院による口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄の自立度などに合わせて、下着やパッド・おむつ類の検討を行い、選択しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護職と相談して、食形態の変更や内服薬などを検討し、個別の対応を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一時期、職員の手が足りず、入浴のペースが乱れることがあったが、現在は、3日毎のペースで入浴していただいている。外出などで、入浴できなかった方に対しては、その前後で入浴していただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事や入浴の時間にとらわれず、その方の状況に応じて、時間をずらし、しっかりと休息できるように支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の変更があった場合には、看護職員が連絡ノートに詳しく記し、全職員が把握をしている。 また、処方薬の内容はファイルしており、いつでも確認することができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼりたたみや洗濯物たたみなど、役割が自然とできています。 畑仕事でも、できる範囲で職員と協力して行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	敷地内の花壇や畑へ出て行かれたり、喫茶店や花見などの季節の行事で外出したり戸外へ出掛ける機会を作っています。 また、ご家族と外出される方もいらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族やご本人と相談し、必要な方にはお金をお預かりして、使用できるようにしていますが、お金を盗られたという被害妄想のある方には、ご家族とも相談して、手元には置かないようにしたケースがあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話をつないだり掛けたりすることを支援しています。また、手紙のやり取りもできるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、利用者とともに掲示物を作成し飾ったり、懐かしい音楽を掛けたりして、居心地よく過ごしていただけるように工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、自然とその方々の定位置みたいなものができ、利用者同士が居心地の良い場所を作られているようです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔、陶芸をされていた方の部屋には、その方がつくられた作品を飾ったり、お孫さんが部屋を飾って下さる方もいらっしゃいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置をしっかりと認識できていない方に対し、居室の前にトイレへの矢印をつけたり、大きく表示をしたりして、一人でもトイレへ行けるような工夫をしています。		